

編集後記

『現代インド研究』第3号と第4号の編集に携わることで知ったのは、特集企画を立てることの面白さと査読過程の舞台裏である。これらは編集委員ならではの「役得」であると言っても過言ではないだろう。第3号では国際関係を、第4号では比較をテーマとする特集の担当委員の一人として、執筆依頼候補の人選など企画立案に関わった。「ぜひこの機会にあの人に寄稿をお願いしよう」「この人ならこういう無茶ぶりに対して思いもよらぬネタで返してくれるのではないか」などと考える愉悦は、他では味わうことの難しい、まさしく編集委員の醍醐味である。若輩者の稚拙な提案を鷹揚に受け容れてくださった、三尾編集委員長をはじめとする編集委員の先生方と、荒削りな企画に対して期待以上の論致で応えてくださった寄稿者の方々にこの場を借りて御礼を申し上げるとともに、若手研究者に向けては本誌に限らず様々な学術雑誌の編集業務への積極的・自発的な参画を呼び掛けたい。

というのも、編集委員の「役得」として各分野の第一人者である査読者の査読コメントを、投稿者ではないのに数多く読む機会に恵まれたことは、自分自身の研究にとっても極めて貴重で有益な経験だったからである。編集委員の大役を任される僥倖はそうそうあるものではないし、その苦労は並大抵のものではないのだが、この業務を通じて論文の書き方の向上という隠れた効能を確かに覚えている。その意味で、裏方経験から最も多くを得ることができるのは、実は研究業績（とりわけ査読付き論文）の蓄積に生存がかかっている若手なのではないかというのが、委員退任にあたっての感想である（と同時に、時間と労力をとられる大変な仕事なので、2号も務めればもう沢山というのも偽らざる実感であるのだが）。査読票を通じて勉強させてくださった数多くの査読者に感謝申し上げたい。（U）